

Q・夏は下痢することが多いですが、原因や治療法を教えて下さい。

A・下痢の原因としては

- (一)ウイルス感染(夏カゼ)
- (二)細菌感染(食中毒)
- (三)食物・飲み物によるもの
- (四)その他、食べ過ぎ、食べ合わせ、薬剤、特殊疾患などが考えられます。

## けんこうニュース

このうちのほとんどが、(一)ウイルス感染によるものです。夏かぜと呼ばれるもので、手を介して口から入ったウイルスが腸で増殖し、病気を起こします。腹痛、下痢などの症状が上で熱が出たり、喉が痛くなったりします。予防には手洗いが、有効です。

院長



食中毒は怪しい物を食べてから半日～一日で下痢、腹痛を起こします。また、夏には生野菜、すいかなど消化の悪いものを食べることが多くなります。これも下痢の原因になります。三～四日で自然に治るもののがほとんどです。飲食を少なくて、様子を見て下さい。

◎今度の京都の場合

患者さんにがんだと説明していないので、本人は希望していないのかつた。家族は「早く楽にしてあげてほしい」と懇願していたこと、またがんの末期ということです。しかし、院長、主治医、看護婦が治療方針で、一致していませんでした。結局二、三の条件は満たされていますが、一、四件は満たされていません。



◎がんの末期治療とはどんなことをするのか

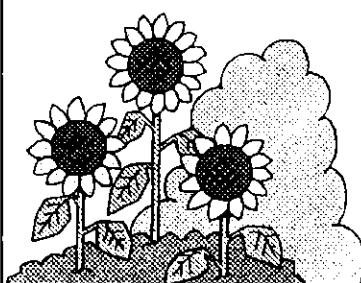
苦しみや、痛みをとることを最優先させます。最近では、いろいろの薬剤が出ておりますので、苦しみや痛みをあまり感じないで過ごせます。たいていの場合死の直前は、痛み止めの麻薬などがかなりたくさん使われていますので、痛みなどは感じていなければなりません。



☆受付けからのお願い  
月初めには必ず保険証を受付けにお出し下さい。  
診察券は毎回お持ち下さい。

7月・8月の休診日

(日曜・祭日)  
水曜・土曜・第一火曜午後  
8月8日(木)午後  
8月14日(水)  
～8月16日(金)



# がんの末期と安樂死

## ○がんの末期の理想的な方法

○がんの診断がついたら、その段階で、できるだけ早く患者さんに教え、今後の方針を決める。手術する時には、その前、又は退院前に、よく説明する。精神的な面での支援が大切です。

○末期治療は家庭で

こういう時こそ住み慣れた自分の家で、家族に囲まれた生活をなるべく長期間過ごせることが、患者にとってもつとも幸福なことでしょう。

これらのもずかしい条件を克服して、がんで苦しんでいる人々が、楽な気持ち良い時間を少しでも長く過ごせるよう、みんなで努力して行かなければなりません。

## ○医療スタッフの意志統一がむずかしい

一般に大病院では、医師が指示し、看護婦が投薬することが多いのですが、殺人罪を問われる覚悟で協力し合うのは大変むずかしいことです。

○がんの末期はどこで過ごすか

||どうしたら良いか||

一、病院に入院する。

二、ホスピスに入る。

三、自宅で在宅医療を受ける。などの方法がありますが、私は二、三の方にとつても大変意義あることです。

○がんの告知がむずかしい理由

がんと告知されると、ほとんどがんの患者さんはパニック状態となってしまうでしょう。この時の精神的援助がむずかしいので、つい告知をせずに死ぬまで嘘をつき通さなければならぬ事になり、また、安樂死にもつてゆくことができなくなります。